

令和6年度 小平第三中学校 授業改善推進プラン

美術科 1年生

1 日常の学習状況について

- (1)授業規律がしっかりしている生徒が多い。準備や片付けも多く生徒がきちんと行っている。
- (2)発想や構想する力を伸ばし、課題に対して考えを深める姿勢を身に付けていきたい。
- (3)知識と基本的な技能を身につけていく必要がある。

2 授業での様子を踏まえて

授業内容や授業プリント等についてなど、おおむねしっかりと取り組んでいる。技能面で表現することに自信がない生徒が多い。

3 学力に関する状況

- (1)授業への取り組む姿勢は意欲的である。
- (2)発想や構想が深める時間が不足していた。
- (3)集中して作品制作に取り組んでいる。

4 教科の課題

(1) 学習面

- ①単元内容や基本的な用具の使用方法など、きちんと説明し、理解していく必要がある。
- ②美術を特別なものと考え、日常生活や他の教科の学習とのつながりをもてていない。

(2) 指導面

- ①前回の授業の振り返り等に時間がかかる。
- ②ICT 機器の使用で理解しやすい説明を行うなどの工夫が必要。

5 授業改善について

(1) 学習面

- ①課題に取り組みながら、技法や用具に対する理解を深め、生徒の疑問点や理解していない点を出しやすくし、質問や疑問に答えるようにする。
- ②日常生活との関係ある題材の内容や他の教科とのつながりを意識した課題設定を行う。

(2) 指導面

- ①単元の流れを黒板に記し、前回の内容の振り返りをしやすくする。
- ②技法や制作手順などを、タブレットや実物投影機等の ICT 機器を用いて説明する。
- ③制作や手順が「なぜそうすべきなのか」を説明し、発想・構想の起点を示す導入活動を行う。

6 成果の確認

年度末に実施する授業評価アンケート、及び作品の評価により検討する。

令和6年度 小平第三中学校 授業改善推進プラン

美術科 2年生

1 日常の学習状況について

- (1) 授業への取組は、多くの生徒が意欲的に行うことができる。
- (2) 発想や構想をふくらますことができず、表現活動に結びつきにくい傾向にある。
- (3) 美術に関する知識の理解は概ねできている。

2 授業での様子を踏まえて

授業内容や授業プリント等について、おおむねしっかりと取り組んでいる。
制作活動で苦手意識をもっている生徒が多く、課題に対し継続して取り組めない状況がある。

3 学力に関する状況

- (1) 授業への取組は、集中して取り組む生徒が多いが、継続した課題を苦手な生徒がいる。
- (2) 発想したことから構想を練る段階で戸惑う生徒がいる。
- (3) 定期考査では、基礎的な知識・技能が定着していない状況がみられた。

4 教科の課題

- (1) 学習面
 - ①課題ごとのつながりの意識がなく、積み重ねができていない状況がみられる。
 - ②基礎的な技能が定着していない状況がある。
- (2) 指導面
 - ①アイデアを考える段階で手が止まってしまい、その後の制作に支障が出る生徒がいる。
 - ②単純な形に置き換えて説明し、図示しても理解が深まらない場合がある。

5 授業改善について

- (1) 学習面
 - ①単元の目的を明確にし、考え方や技能面のつながりをわかりやすく伝える。
 - ②題材の工夫を行い、基礎技能の定着をはかる。制作作業の目標を明確に設定する。
- (2) 指導面
 - ①鑑賞を通して、発想を広げるための題材を準備する。
 - ②技法や制作手順などを、タブレットや実物投影機等の ICT 機器を用いて説明する。
アイデアスケッチはタブレットを積極的に活用し発想を広げる手段の一つとする。
 - ③単元内容を改善し、意欲的に取り組める内容や導入を工夫する。意見や疑問を出しやすい雰囲気を作り、全体で共有し、理解を深める。

6 成果の確認

年度末に実施する授業評価アンケート、及び作品の評価により検討する。

令和6年度 小平第三中学校 授業改善推進プラン

美術科 3年生

1 日常の学習状況について

- (1) 授業への取組は大半の生徒が意欲的にしっかりと行っている。
- (2) 構想での柔軟な発想が、作品に活かされていない状況がみられる。
- (3) 制作で、無難な発想、技法を選ぶ傾向がある。

2 授業での様子を踏まえて

課題に対して、真摯に向き合い取り組む姿勢が多くの子にみられる。疑問に対する質問も活発で、課題に向き合うことができる。発想構想を活かせる活動につなげたい。

3 学力に関する状況

- (1) 課題への取り組みは意欲的である。
- (2) 技法や用具について理解しているが、それらを工夫して発想や構想を深める生徒が少ない。

4 教科の課題

(1) 学習面

- ① 柔軟な思考から発想を広げ、制作に取り組み、創意工夫する姿勢を高めていきたい。
- ② 自ら考えて、課題を解決する方法を導き出せる生徒が少ない。

(2) 指導面

- ① 意欲的に質問をする生徒が多いが、発想が深まらず、作品制作に生かしきれない生徒が多い。
- ② 自分自身の作品制作に最適な用具を選択、活用できる技能を定着させたい。

5 授業改善について

(1) 学習面

- ① テーマ設定を行い、タブレットを活用して具体的に制作プランを立てる。
- ② 様々な技法を例に挙げ、柔軟な発想で制作ができるように指導を行う。
- ③ 制作・鑑賞などのポイントを整理し、自ら内容を深められる工夫をする。

(2) 指導面

- ① 机間指導の中で教員が質問をし、自ら考えて制作する環境にさせる。
- ② 技法や制作手順などを、タブレットや実物投影機等の ICT 機器を用いて説明する。
- ③ 明確な評価規準の下、適切な評価が行われることを説明し、評価のポイントを理解させた上で授業を行う。

6 成果の確認

年度末に実施する授業評価アンケート、及び作品の評価により検討する。